

2025年5月8日(木)

中国新聞 SELECT 掲載

ウクライナの首都キーウで3年以上、ロシアのミサイルやドローンの攻撃にさらされながら暮らししている。戦争とは過去のもので第二次世界大戦以降、一度と起てることはないだろうと思っていた。だが、わが国は今も「ウクライナ危機」という戦争状態にある。2022年2月のロシア侵攻から3年余り、戦争体験がない人が戦争の惨禍を理解することができないことを痛感している。

一方で戦争下でも未来へ向け、生きることを学べると知った。国

## 被爆80年 リレー エッセイ



キーウ市州行政局内部監査部長

オクサンナ・コルティク

### 平和復興 広島から学びたい

際協力機構（JICA）のプログラムで広島市を訪れ、見事に戦後復興を果たしたまちの様子や市民生活に触れる機会を得たことがそれだ。原爆の惨禍から立ち上がりた広島と原爆資料館（中区）の訪問は忘れぬ経験となつた。

広島への思いが強いのは、私がヨルノーピリ原発事故（1998年）の翌月に生まれたこと

6年4月）が大きく影響しているのかもしれない。事故以来、原子力事故が人間の健康に与える直接、間接的な影響を多くの人が知り、彼らの苦しみ様を目の当たりにしてきた。

人々はその悲劇を忘れておら

る。ア軍が占領し、戦闘に巻き込まれると原子力事故につながるかもしないウクライナの最も重要なインフラの一つ、ザボリージヤ廃棄、さらに核攻撃に踏み切る可能性を示唆したロシアの動向だ。

なぜ世界は変わらないのか。なぜ広島やチヨルノーピリのような悲劇が再度繰り返されようとするのか。平和は安定した生活や社会の構築、持続可能な経済発展にとって不可欠だ。平和以上に価値のあるものなど世界にはない。

人々はそのまま恐怖にさらさられるとは思ひもしなかつた。ロシ

随时掲載します